

第 9 期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

※「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（平成 3 0 年 7 月 3 0 日厚生労働省老健局介護保険計画課）」の自己評価シートをもとに作成

第 9 期介護保険事業計画に記載の内容				R 6 年度		
区分	現状と課題	第 9 期における 具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①	<p>・地域づくりの担い手の活躍により、新型コロナウィルスや令和4年度の大雨災害後も、サロン活動は延回数、延人数ともに維持している。</p> <p>・1会場あたりの平均参加人数は10人程度を維持している。</p> <p>・移動手段がない、他の家族が利用するため自分は利用しないという高齢者や、サロン協力量の高齢化、参加者の減少等により隣の地区との合同開催が困難となっている地区も見受けられる。</p>	<p>○少人数でもサロンの立ち上げや継続ができるよう、サロン協力量員と介護予防サポーター等の地域活動の担い手のマッチングの継続</p> <p>○サロンに参加しない（またはできない）人への「山海里体操」やテレビ体操の周知による自主的介護予防活動への支援</p> <p>○男性参加者が多いサロン運営の聴き取りや、サロンメニューの共有を図ることを通じた活動支援の継続</p>	<p>○ サロン延回数の維持と参加延べ人数の増加 R6年度 57会場 延805回 延7,960人 R7年度 57会場 延805回 延8,010人 R8年度 57会場 延805回 延8,060人</p>	<p>● サロン延回数の維持と参加延べ人数の増加 R6年度 59会場 延877回 延9,205人（見込） ●サロン協力量員に対するアンケート調査による実態把握と意向確認 ●協力量員が不足している地域と、地域活動に意欲のある介護予防サポーターとのマッチング ●サロン協力量員や民生委員に対する、介護予防サポーターやフレイル（虚弱）予防サポーター養成講習への参加勧奨と講習後のサロン参加への支援 ●近接地区との合同開催や他地区の受け入れ開催等による開催継続への支援 ●サロン参加の有無を問わず、山海里体操の周知等による自主的な健康づくりの意識づけ ●民生委員等との情報交換 ●新規サロン立ち上げの支援と一般介護予防事業等との連携</p>	○	<p>【課題】</p> <p>・高齢化や人口の減少等により担い手や参加者が減少し、継続開催や合同開催が困難な地区がある</p> <p>・閉じこもりがちな男性の参加推進</p> <p>・サロンに参加しない高齢者の実態把握</p> <p>・高齢者の自主的な健康づくりへの支援（サロン以外）</p> <p>【対策】</p> <p>・充実したサロンメニューの紹介や導入支援</p> <p>・サロンと介護予防サポーターが実践する活動の連携（マッチング）</p> <p>・近接地区との合同開催や他地区の受け入れ開催等への支援</p> <p>・少人数でもサロン立ち上げや継続へつなげる支援</p> <p>・民生委員や一般介護予防事業等との連携による情報収集と参加勧奨</p> <p>・山海里体操の周知等による自主的な健康づくりの意識づけ</p>
①	<p>・元気なうちから認知症予防についての知識等を得し、生活の中で実践する方法を学び、その知識と実践方法を地域で受け伝える人材を育成する。</p> <p>・介護予防サポーター養成講習会修了者で地域活動の意向がある人は登録をされるが自ら活動の場を求める人は限られる。</p> <p>・病気や高齢を理由に登録から外れる人は年に1～2名程度。</p>	<p>○ 脳元気お助け隊講習会（介護予防サポーター養成講座）による継続的な育成と登録</p> <p>○参加者兼支援者としてのサロン等の活躍の場とのマッチングの継続</p> <p>○アンケートやスキルアップセミナー等によるサポーターの活動内容の共有と活動支援</p> <p>○フレイル予防サポーターを兼ねた、フレイルチェックの担い手としての地域活動の推進</p> <p>○活動に対するモチベーションを上げるためのサロン支援地区への介護予防サポーター加算の継続</p>	<p>○ 脳元気お助け隊講習会（介護予防サポーター養成講座）の開催 毎年度 1クール5回で実施</p> <p>○ 介護予防サポーター登録者数の増加 R6年度 120人 R7年度 130人 R8年度 140人</p>	<p>● 脳元気お助け隊講習会（介護予防サポーター養成講座）の開催 回数 1クール計5回/年 開催日 令和6年7月～8月 修了者実人員 10人うち介護予防サポーター登録 10人</p> <p>●介護予防サポーター登録者数登録者累計120人</p> <p>●介護予防サポーターに対するアンケート調査による実態把握と意向確認</p> <p>●短期集中はつらつ教室、介護予防のつどい、フレイルチェック、早期認知症把握事業、ふれあいサロン、健康体操事業等へのボランティア活動の紹介とマッチング</p> <p>●広報誌での介護予防サポーターの活動紹介</p>	○	<p>【課題】</p> <p>・教室修了者の地区活動やボランティア活動への円滑な参加の推進</p> <p>・就労や介護等によりサポーターの参加や活動意欲に差が生じる</p> <p>【対策】</p> <p>・活動の紹介やアンケート調査等による実態把握と参加者兼支援者としての活動意欲の向上の推進</p> <p>・フレイル（虚弱）チェック等の活動の周知と勧奨</p> <p>・スキルアップセミナー等の内容の充実</p> <p>・モチベーション向上のため、地域ふれあいサロンへの支援実績により助成される介護予防サポーター加算についての周知</p>
①	<p>住民や介護職員等が、リハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）の派遣による技術的助言を受けることで、介護予防の取り組みを総合的に支援している。</p>	<p>○介護保険の生活期のリハビリテーションとしての訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、介護老人保健施設・介護医療院(短期入所療養介護)の4つのサービスの他、他の居宅サービスや介護予防、医療サービスとの連携による提供体制の充実に努める。</p> <p>○要介護者・要支援者が生活している地域において、健康的に暮らすことを推進するため、本事業の利用と計画値の達成を目指す。</p>	<p>○地域リハビリテーション活動支援事業実施数 R6年度 11回 R7年度 15回 R8年度 15回</p>	<p>●住民やケアマネジャー等に対する介護予防の為の日常生活動作や住環境について技術的助言を行うためのリハビリテーション専門職の派遣</p> <p>●町内の介護サービス事業所の職員に対し事前に質問や要望を確認したうえでリハビリテーション専門職を派遣し、集団での体操や個別の対応等について技術的助言を実施</p> <p>●ケアマネジメント支援のため地域ケア会議やサービス担当者会議等にリハビリテーション専門職を派遣</p>	△	<p>【課題】</p> <p>・地域ケア会議やサービス担当者会議等への派遣については別事業での対応がなされている場合が多く、目標値に対して全体の利用数が少ない（R5実績8件）</p> <p>・（別事業の利用であっても）個々のケースに応じた自立支援のプロセスの共有とケアマネジャーのケアプラン力の向上支援のためのリハビリ専門職による支援の機会が確保されているか不明</p> <p>【対策】</p> <p>・居宅介護支援事業所等へ事業の周知と利用勧奨</p>
①	<p>「認知症カフェ」や「介護者のつどい」はあるものの実施回数が少なく、介護者同士の交流の機会が得にくい現状がある。「認知症カフェ」の充実を図り、認知症の方本人の社会参加や介護者同士の交流を通じて、介護ストレスの軽減に繋げていくなどの家族支援が必要。あわせて認知症サポーター等が支援者として関わるなど、本人や家族とサポーターを結びつける大切づくりに努める。</p>	<p>○「認知症カフェ」を設置する際に開設費、運営費を補助。運営方法などの活動支援</p> <p>○活動意欲のある認知症サポーター等がボランティアとして運営に携わることで、サポーター養成後の地域での活躍の場を創出</p>	<p>○ 「認知症カフェ」設置数増 R6年度 4会場 R7年度 5会場 R8年度 6会場</p>	<p>●認知症カフェ設置数 R4年度 2会場 実施回数 0回 R5年度 3会場 実施回数 4回 R6年度 3会場 実施回数 4回（予定）</p> <p>●認知症カフェ運営補助金の周知と利用の支援 R6年度申請数 なし</p> <p>●開催時の運営支援 （関係機関や対象者への周知、普及啓発用資料等）</p> <p>●認知症サポーター活動の推進 認知症カフェでの受付や案内等のボランティア活動の案内と勧奨</p>	△	<p>【課題】</p> <p>・河野地区における周知方法と参加しやすい環境整備</p> <p>・感染予防を踏まえた実施の継続</p> <p>・運営ボランティアの確保</p> <p>【対策】</p> <p>・医療機関等関係機関への配布等による周知策の強化、参加方法の検討や周知</p> <p>・事業所への講師紹介、運営内容等の助言等の支援の継続</p> <p>・認知症サポーター養成講座等終了時の事業紹介や活動アンケートの実施</p> <p>・認知症カフェ未実施事業所への事業内容の周知と、実施に向けた支援</p>

※「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（平成 3 0 年 7 月 3 0 日厚生労働省老健局介護保険計画課）」の自己評価シートをもとに作成

第 9 期介護保険事業計画に記載の内容				R 6 年度		
②	過度なサービス提供に至らないよう、適切なケアプランとなっているかの検証確認や福祉用具貸与について貸与や価格が適正か確認が必要。ケアプラン作成においては、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの質の向上を支援し、介護給付の適正化へつなげる。	○保険者、主任介護支援専門員、ケアプランを作成した介護支援専門員が協働してケアプラン点検を実施 ○介護支援専門員に対し、地域ケア個別会議における多職種での事例検討により、自立支援の視点への気づきを促す ○実施指導にて、ケアマネジメント実施状況の検証確認を行う ○福祉用具の例外給付や居宅介護支援事業所における特定事業所集中減算対象事業所等へのケアプラン点検を行う	○ケアプランの点検実施 R6年度 12件 R7年度 12件 R8年度 12件	●ケアプランの点検 9件 ・ケアマネ協働点検 (0件) ・地域ケア個別会議 (6件) ・実施指導 (3件)	○	【課題】 ケアプラン点検後の介護支援専門員の意識の変化に繋がったか、マネジメント内容や支援内容がどのように変化したかの客観的な評価が乏しい 【対策】 ・年度末に点検後のケアマネに対しアンケート実施しマネジメント等の変化について評価する。 ・ケアプラン点検シールを活用し、「ケアプランの記載の充実度」や「面談時の確認ポイント」を可視化し、次の評価の資料として活用する
①	助け合い活動に意欲のある住民が集まり、地域の現状を知り目指す地域像や地域にとって必要な活動などを話し合い、活動の場を設けて子どもから高齢者まで誰でも参加できる集いの場を今庄地区で行っている。また今年度から町内初の第 2 層協議体として活動している。今後はその他の地域においても地域での活動を発展させ、第 2 層協議体を広めていく必要がある。	○今庄地区の活動や打合せの場に生活コーディネーターや行政職員も参加し構成員が主体的に活動できるよう支援する ○その他の地域にも第 2 層協議体を設置するために、興味を示している方々に活動のアドバイスや現在ある第 2 層協議体の活動の見学を実施	○ 第 2 層協議体の設置 R6年度 1件 R7年度 2件 R8年度 3件	●第 2 層協議体の設置 今庄地区「みんなの集まり」が今後第 2 層協議体として活動していくため、県の立ち上げ支援事業を活用 ●活動支援 月 1 回の活動及び打ち合わせに参加 ●他団体等との交流活動 自治会、観光協会、サロン、老人クラブなど地域団体との交流を図る	△	【課題】 ・活動の充実と地域の拡大、協議体メンバー・参加者の不足 ・今庄地区「みんなの集まり」の活動は第 3 層協議体の位置づけとなり、現状では第 2 層の役割を担うのは困難 【対策】 ・サロン協力員や社協の登録ボランティア、地域関係団体の方々に今庄の活動に参加してもらい、活動や運営メンバーを増やす ・実績報告会などの実施で活動を周知し、集まりへの参加を促し、地域のことに関心をもってもらう ・地域のことを考える機会（協議の場）の創出を支援する